

論文審査の結果の要旨

平成 31 年 2 月 18 日

申請者： 張 南薫

論文題目： ネットニュース翻訳におけるプロセス規範の研究
—人民網日本語版に関する情報伝達の構造分析—

情報のグローバル化を背景に、ネットニュースの翻訳は、国際交流の現場でかつてない大きな役割を果たしているが、それに関する理論的研究は、まだ十分とは言えず、かつニュース翻訳に関する先行研究は、マクロ的な文化理論とミクロ的な翻訳技法論のいずれかに偏っているのが現状である。本論文は、翻訳という分野の学際的な特徴に目を向け、マクロ的な文化論・異文化間コミュニケーション理論とミクロ的な翻訳技法研究の間を、中位的な情報論的視点で架橋するという、きわめて立体的な研究の枠組みを築き上げている。ここに、上述の研究現状の変革を可能にしうる本研究の独創性が特定できる。

本論文は、中国政府の対外メディア翻訳の「対外宣伝の三つの密着原則」を「期待規範」と定義したうえで、ニュース翻訳における Chesterman の「プロセス規範」（責任規範・コミュニケーション規範・関係規範）を構成する原則を明らかにしている。その際、従来の言語形式を主な対象とする伝統的な翻訳論の研究パターンを踏襲せず、二言語間に生じる「情報的ずれ」を分析することによって、「プロセス規範」の実態に迫っている点は、特に注目に値する。中でも、ネットニュース翻訳における固有名詞の重要性を発見し、情報の冗長さの考察を通じて「文化要因がメディア様式に影響を与え、メディア様式の変化が言語形式のずれをもたらす」という連鎖メカニズムを明らかにした点は、もっとも大きな独創性であると考えられる。この「プロセス規範」の解明は、膨大なニュース翻訳の実例を分析することによって初めてなし得たものであるという点も、特筆すべきであると言える。

本論文は、また ST (Source Text) と TT (Target Text) の情報価値の等価を図るために、中国語 ST の文体・ジャンルに応じて、日本語 TT の語種の取捨選択や表現力の向上をいかにすべきかについて明確な指針を与えている。このような指針は、翻訳実務・翻訳学習における複雑な訳語の取捨選択に際して確実で柔軟な根拠を与えるばかりでなく、翻訳を支援する情報技術の開発にも有効なヒントを与え得るのではないかと期待できる。

平成 31 年 2 月 15 日（金）、東京紀尾井町キャンパス実施した口述審査では、論文の問題提起・研究仮説・論証のプロセス・結論を明瞭に説明し、先行研究や事例分析の紹介も適切であった。副査の教員との質疑応答でも、事例分析の具体例やニュース翻訳の政治性などの質問に、それぞれ適切に答えた。この間、研究が必要な部分は、今後の課題として研究を継続・深化させたいという姿勢が明確に見え、研究者としての学究的姿勢が認められた。また、研究者であると同時に翻訳者であり、教師でもあるということの自覚も窺えて、理論を翻訳や教育の現場に還元したいという意欲が感じられた。

以上、提出論文も口述審査も、博士の学位を与えるに値するものと判断して、合格とした。

審査員（主査）： 人文科学研究科 川口 義一

審査員（副査）： 人文科学研究科 袁 福之

審査員（副査）： 大連外国語大学 陳 岩

審査員（副査）： 大連理工大学 杜 鳳剛